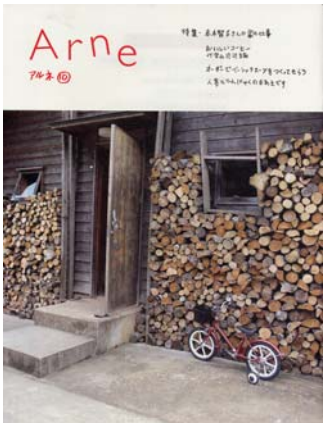
００５　Ｃａｃｃｏ

作品名	作家名	感想	評価
博士の愛した数式	小川洋子 新潮社	映画も観ました。本も読みました。どちらもとても面白かったです。あえてどちらかを選ぶなら最初に観てしまった映画かな。ルートの青年時代の吉岡くんがとてもいいし、吉岡くんのナレーションで回想形式にした脚本は原作のよさを生かしとてもうまくできていたと思います。ただ映画でははっきりしている博士と未亡人の恋人関係を小説では読み手の想像に任せています。ふたりの微妙に距離のある関係は小説の設定のほうが納得がいくし、そのほうが好みです（私は精神的繋がりだと思っています)。映画は博士の子供を思う気持ちに説得力を持たせるためにああいう設定にしたのでしょうか？恋人関係であったなら、ふたりのその後に取る道は結婚するか、別れるか、どちらかのほうが自然な気がします。精神的な繋がりであるから、そばで暮らすことができたのではないかしら。家政婦をくびになってからのお墓参りのエピソード、ラストの映画では説明されなかった部分もとてもよかったです。	☆☆☆☆★
2002年のスロウボート	古川日出夫 文春文庫	実はこの作家さんは知らなかった。息子のガールフレンドの叔父さんってことを聞いて急遽読んでみました。村上春樹の小説「中国行きのスロウボート」をリミックスした作品で、各章のタイトルは村上作品からフレーズを借りてつけてあるそうです。小説界にもこういうトリビュート作品があるんですね。内容はちょっとわかりにくかったです^_^;近しい叔父さんの心情を作品から知るって身内としてはどんな気分なんだろうとそんなこと思いながら読んでました。	☆☆☆
夢にも思わない	宮部みゆき 中央公論社	中学生のふたり組が探偵役の赤川次郎ばりのお気楽ミステリ。「今夜は眠れない」の続編らしい。別にそんな細かいとこにこだわらなくてもいいじゃん、ってオチ。この手の「僕」ものでは栗本薫さんの「ぼくらの時代」が一番面白いんじゃ。あの頃は斬新だったしね。	☆☆

雑誌　Ａｒｎｅ（アルネ）２００５年１０月号



ある日グリコちゃんからメールがきて「挙動不審になるほど興奮した」雑誌をぜひぜひ見てくれってことでした。
地元では雑誌のバックナンバーなんて絶対手に入らない！
なんということでしょう、ちょうど今日は新宿は紀伊国屋に行く予定。ってわけで、すかさず買うことができました。春樹さんのお宅が実に 10 ページに渡って載っています！こんなに取材させちゃっていいんだろうか、と思いつつ、その春樹さん宅は小説世界そのままに日常生活を思いっきり自分流に楽しむために作られたように見えます。これなら取材いつでもＯＫじゃん。

村上春樹さんのおうちへ伺いました。

絵がたくさんかけてあります。
落田洋子さんの絵です。

山の上に村上さんのおうちはありました。

奥さまのお仕事部屋。

1階の居間からのながめもいいのでした。

奥さまが作られた村上さんデザインの
ステンドグラスがはめこまれていました。

夕方に電気をつけてもらったら、
外の雰囲はこんなふう。山の向こうに海が見えます。

マガジンハウスの「アン・アン」で村上春樹さんのエッセイ『村上ラヂオ』が連載された時、挿絵（銅版画）を描かせてもらいました。1年間でたしか52枚だったと思う。実は私は村上春樹ファンなのです。でもずーっと日本の作家のよりアメリカの作家のものが好きでした。トルーマン・カポーティとかフィリップ・ロスとかポール・オースターとかレイ・ブラッドベリとか。でも村上春樹さんのだけは大好きだったのです。私のたった1人のドキドキする日本の作家さんでしたから、挿絵を頼まれた時のうれしさは言葉では表現できません。それで気負いました。最初の絵2〜3枚は村上さんのエッセイには合っていませんでした（その後も何枚も版線してたと反省）。緊張しましたから、1年が過ぎて連載が終了して、マガジンハウスから単行本として出されることになり、50のエッセイにしばられ、挿絵はあと50足してどのエッセイにも挿絵が2枚入ることになり、とてもすきな本になりました。この仕事をさせていただけて本当によかった。おれに挿絵の銅版画をさしあげたら、おう

Arne
22

この家でスパゲティを茹でたりコーヒーを飲んだりいたずら電話の相手をしたり大好きなジャズを聴いたりするわけね。そこに奇妙な客人がやってきて春樹さんを思いもかけないところまで連れて行ってしまうわけね。地下には図書室があり蔵書がきちんと整理されています。どこもかしこもおしゃれに整然としています。昔の文士が見たらこんなところで作品は生まれない！なんて怒るんじゃないだろうかと思うほどのきちんとしたライフスタイル。それが村上春樹的なんだと思います。

大橋歩さんが企画・取材・編集・発行と全てをやっています。平凡パンチの表紙でわたし世代には忘れられないお方。春樹さん宅を訪問したのももちろん大橋さんです。超うらやましい。あたしなんかはこういうお家は緊張しちゃってダメだけどね。でも一度春樹さんにはお会いしたいな。このお家は鎌倉にあるのだとグリコちゃんは前に言っておりました。近いじゃんね。